

『公共施設を快適に使い続け、改築するまちづくり』

1、目指す姿

安くて適切な公共施設などの補修、改築をすすめる
公共施設や建物を安心・安全に使い続けるまち

2．指標

3．現状と課題

今、法定耐用年数を超える建造物や橋梁、上下水道など、老朽化そのものは避けることはできません。暮らしや地域の拠点である建物や都市基盤施設・設備の安全性を確かめ、適切な保守管理・メンテナンス計画による延命策とその改築計画（例えば；アセットマネジメント）づくりが重要です。

学校の耐震補強もすすみ、教育予算の減少で教育環境も後退しているようです。子どもたちが安心して学ぶために、耐震整備完了後には、PTAと学校現場などの協働をすすめ引き続いて、環境にやさしい水循環や太陽光発電など環境に配慮した教育環境の整備が大切です。財政難を理由に公園遊具や建物など公共施設は、適切な管理・維持補修が後退し事故がおきやすく、安全に確認の努力が市民などと行政の協働で努力されています。

公共施設は、新設整備ばかりでなく、定期点検や耐震補強工事も含めて長期的視野で考え、そこで遊び暮らし利用する市民・PTAなど“目”やボランティア活動など“手”などの成果も生かし、自分達の施設建物は、検査や定期点検を受けて現状を知ることが必要です。遊び場からハザードをなくすために、つくる・つかう・まもる関係者の協働で安全対策を高めることも大切です。

そして計画的に修繕計画を立てて効率的なす計画修繕と予防修繕が大切です。

公共施設や建物を環境にやさしく安心・安全に使い続けるために、設備能力に対するエネルギーロスを少なくし長持ちさせ、太陽光発電など環境に配慮した維持管理アップ作戦も必要です。近年、建物や遊具などによる死亡事故を教訓として、その管理者の安全管理義務が強化された「定期報告制度」を活用し、建造物を大切な財産として長く快適に使えるまちづくりを進めます。

4．取組・役割分担

(1) 市民等が取組むこと

- ・検査や定期点検を受けて現状を知り、改善に向けて地域で話し合う
- ・市民・PTAなど“目”やボランティア活動など“手”に
- ・自分達の施設建物は、検査や定期点検を受けて現状を知ること
- ・日々変化している遊び場の維持管理に協力

(2) 市民等、行政が協働で取り組むこと

- ・ 計画的に修繕計画を立てて無駄をなくすすめる計画修繕と予防修繕。
- ・ 設備能力に対するエネルギーロスを少なくし長持ちさせる。
- ・ 太陽光発電など環境に配慮した維持管理の検討
- ・ 建物や遊具などの「定期報告制度」の推進
- ・ 遊び場を、つくる・つかう・まもる関係者の安全検討協議会を設置

5. 個別案件に関する提言

(1) 「アセットマネジメント」の検討

- ・ 適切な保守管理・メンテナンス計画
- ・ 適切な延命策とその改築計画

保守管理をはかる相談窓口

(2) 建物のメンテナンスの重要性

適切な保守管理をはかる相談窓口

建物や遊具などの「定期報告制度」の指導、普及、推進

(3) 環境に配慮した教育環境整備

水循環や太陽光発電など環境に配慮した環境の整備

(4) 子供の遊具の維持管理

地域市民の目が寄せられ、声を寄せる看板の整備

遊び場からハザードをなくす安全計画と整備

6. まちづくりの効果

合理的な保守管理（延命計画）と改築で無駄な投資をなくす。

一層の適切な保守管理計画の促進で快適に使い続ける

参考ノート 『子どもの安全遊具と公園管理』

近年、遊具による事故の傾向には、維持管理の不全を原因とする事故が、繰り返されている実情が問題です。このため、「公園の管理者は、リスクを適切に管理するとともに、生命に危険がある物的ハザードを除去し、子ども・保護者などとの連携で人的ハザードの除去に努める」方針が進められています。

遊び場からハザードをなくす為には、事故の大きな要因となる「つくる事業者側、つかう市民側、まもる管理者側」が協働し安全対策を、管理者が責任を持って更に進めることが重要です。日々変化している遊び場の維持管理は、地域市民の目が寄せられ、声を寄せる看板（何か問題を発見したら、または、公園でのボランティアを希望する方は電話してください）も必要で、こうした、子どもの安全なまちづくりを、地域のまちづくりの課題として進めます。